

カビ抵抗性試験報告書

株式会社イングス 御中

有限会社 アール・シー ウメハラ

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿1394番地の1

TEL:054-203-6477 FAX:054-284-8120

HP:<http://kabi-syugoshin.com/> Mail:info@rc-umehara.com



■ 試験概要

株式会社イングス供試のFF(ファイナルフィニッシュ)塗布検体
による28日間のカビ抵抗性試験を実施した。

■ 結果判定

試料名又はNO.	培 養 期 間			
	7日間	14日間	21日間	28日間
1. 木片(ブランク)	1	3	4	4
2. 木片にFF塗布 抗菌剤2%	0	0	0	0
3. 木片にFF塗布 抗菌剤4%	0	0	0	0
4. 木片にFF塗布 抗菌剤8%	0	0	0	0
5.				
6.				
7.				
8.				
9.				
10.				
11.				
12.				

■ 添付写真

28日間培養後撮影

■ 試験法

◆ 試験法

次ページ記載の62菌を試験菌としたカビ抵抗性試験

◆ 試験菌活性確認

試験開始前の培養による

◆ 接種

湿式法による試験菌混合孢子懸濁液直接接種

◆ 培地

クロラム フェニコール等の抗生物質無添加。
ポテト デキストローズ アガー (PDA)。

◆ シャーレ

角型シャーレ

◆ 培養器と培養条件

培養器： 温度・湿度サーモスタット付きサーキュレーター
培養条件： 温度： 30℃ ± 5℃ 変換時24℃ ~ 35℃
湿度： 95% ± 5% RH. 変換時90% RH. 以上
風速： 60 cm/sec.

◆ サーキュレーター内の確認

培地に木綿の紐を浸し、サーキュレーター内に吊るし、試料と同一条件の接種を行い、サーキュレーター内が菌の発育に適していることを確認。

◆ 培養期間

28日間

◆ 試験菌

6°C±4°C、30日以内保存ストックカルチャー純培養菌及び、共試サブカルチャー菌を使用。

1. ニグロスポラ オリゼー	22. アスペルギルス フレーバス	43. ムコール ラセマサス
2. クラドスポリウム レジネ	23. アスペルギルス フェルシコール	44. ユーロチウム トナフィラム
3. クラドスポリウム ヘルバLEM	24. アスペルギルス オリゼー	45. トリコフィートン メンタグロフィテス
4. クラドスポリウム クラドスポリオイダス	25. アスペルギルス テレウス	46. モニリア フルクチガーナ
5. クラドスポリウム サブアエロスペルマ	26. アスペルギルス フュミガタス	47. ケトミウム グロボーサム
6. トリコデルマ コニンギ	27. オーレオバシディウム プルランス	48. エピコッカム パープラセンス
7. トリコデルマ T-1	28. フザリウム モニリフォルメ	49. アクレモニウム チャルティコーラ
8. トリコデルマ ビリディ	29. フザリウム セミテクタム	50. ワレミア セビ
9. フォーマ グロメラータ	30. フザリウム プラリフェラタム	51. カンジタ アルビカンス
10. フォーマ テレスチアス	31. フザリウム ロゼウム	52. ストレプトフェテシリウム レティカレム
11. プルラリア プルランス	32. フザリウム ソラニ	53. サッカロミセス セレビシ
12. グリオクラディウム ビレンス	33. フザリウム オキシスポラム	54. バシルス サブティリス
13. ゲオトリカム ラクタス	34. リゾプス ニグリカンス	55. バシルス メガテリウム
14. ゲオトリカム カンディダム	35. リゾプス ストロニフェル	56. スタフィロコッカス オーレ
15. ペスタロチア アダスタ	36. ペニシリウム シトリナム	57. シュードモナス エルギノッサ
16. ペスタロチア ネグレクタ	37. ペニシリウム イクパンサ	58. シュードモナス フルレッセンス
17. ミロテシウム フェルカリア	38. ペニシリウム フェニキョローザム	59. サルモネラ タイフィマリアム
18. アルテルナリア テナーズ	39. ペニシリウム リラシナム	60. エスケリチア コリ
19. アルテルナリア ブラッシコーラ	40. ペニシリウム ニグリカンス	61. ボトリティス シネレア
20. アルテルナリア アルテルナータ	41. ペニシリウム フレクエンタス	62. プロテウス バルガリス
21. アスペルギルス ニガー	42. ペニシリウム シトレオビリティ	63.

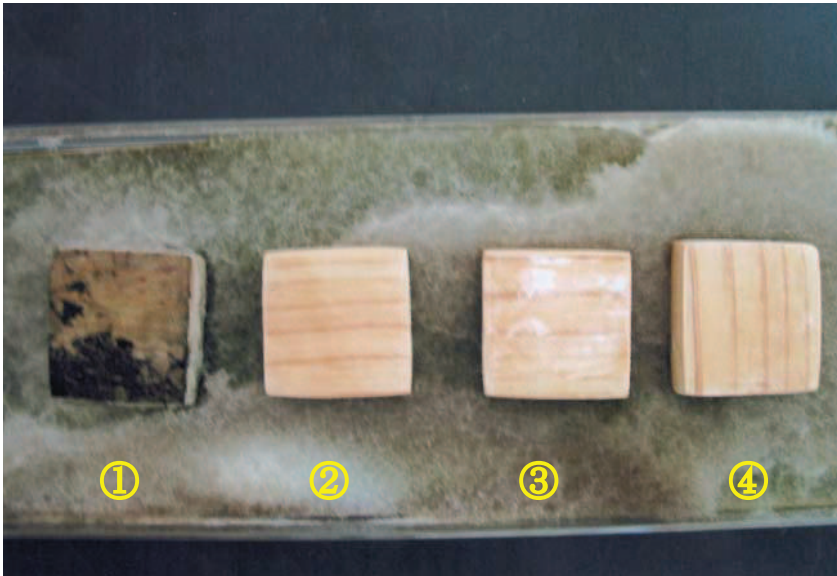
◆結果判定

5段階判定

評 価	菌 の 発 育
評価 0	カビの発育が全く見られない。
評価 1	僅かに発育が見られる。
評価 2	少し発育が見られる。
評価 3	中間的な発育が確認できる。
評価 4	激しい発育が見られる。

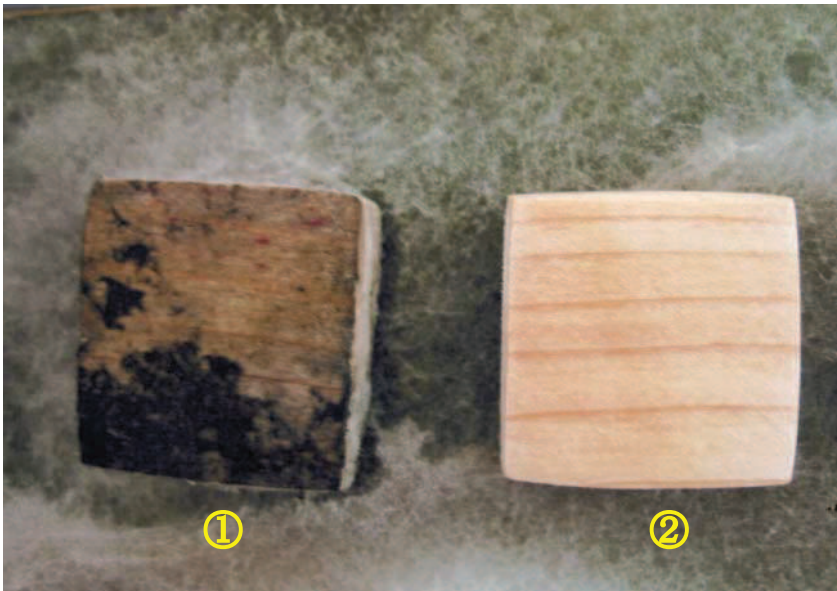
◆混合孢子懸濁液の作成

1. 試験菌へ界面活性剤 (NaCl、純水、Tween-80、1部試験菌スルホコハク酸ジオクチルナトリウム、各菌毎10ml)、湿潤剤 (濃度0.05g/1000g) を混入。
2. パスツールピペットでピペッティング。
3. ガラスビーズフィルターでろ過。
 - 1) エルレンマイヤーフラスコを振って、子実体から孢子を分離。(1部試験菌)
 - 2) 遠心分離器で孢子を分散。(1部試験菌)
4. ガラスロートで菌液を集め、比濁計で孢子数を確認。
5. 試験菌を等量になるように混合。



左から

- ①木片(ブランク)
- ②木片にFF塗布
抗菌剤2%
- ③木片にFF塗布
抗菌剤4%
- ④木片にFF塗布
抗菌剤8%



左から

- ①木片(ブランク)
- ②木片にFF塗布
抗菌剤2%



左から

- ③木片にFF塗布
抗菌剤4%
- ④木片にFF塗布
抗菌剤8%